



秋は自然の中で遊ぶのがいっそう楽しい季節です。公園の木々も赤や黄、オレンジへと色づき、お散歩がより待ち遠しく感じられるようになりました。散歩や外遊びを通して、子どもたちと一緒に秋から冬へと移りゆく季節の変化を感じていきたいと思います。

秋晴れの日には、換気のために開けた窓から、さらりと心地よい風が事業所内に吹き込みます。そんな季節を楽しむ気持ちを大切に、子どもたちと日々穏やかに過ごしていければと思います。

一方で、空気が乾燥し、インフルエンザをはじめとした感染症が流行しやすい時期にもなりました。新型コロナウイルスや、子どもたちの間で流行しているRSウイルス感染症などへの対策も継続ながら、今後も引き続き、子どもたちの健康管理と安全対策にしっかり取り組んでまいりたいと思います。

講話レポート: 「就学先の決定に向けて～それぞれの子どもの特性に応じた就学とは～」

- ・日 時:令和7年10月16日(木)
- ・場 所:谷山市民会館
- ・講 師:南特別支援学校支援部主任
宇都宮淳人先生
- ・対 象:「育ち」年中児の保護者
- ・参加者:16名
- ・内 容:就学を控えるお子さんの「特性」や「就学先の選び方」について、具体的なお話を伺いました。

(1)鹿児島南特別支援学校の紹介

宇都宮先生からは、特別支援学校の教育内容や支援体制についてもご紹介いただきました。子ども一人ひとりの特性に応じた学びの場があることを、保護者の皆さんも改めて知る機会となりました。

(2)子どもの“特性”と“困り感”を理解する

文部科学省の調査によると、通常の学級に在籍する児童のうち約8.8%が、発達障害やそれに近い特性を持っているとされています。

宇都宮先生は、「発達障害は“個性”であり、理解と支援を必要とする特性」と話されました。

子どもたちは、自分の「困りごと」に気づけなかったり、言葉にできなかったりすることがあります。だからこそ、“大人が気づいて寄り添う感性”が大切です。

(3)特性ごとの特徴と支援のポイント

●ADHD(注意欠如多動症)

落ち着きがない、すぐ動いてしまうなど「自己コントロールの難しさ」が特徴です。叱責よりも、先の見通しを伝えたり、行動の見通しを持たせる支援が効果的です。

●ASD(自閉スペクトラム症)

対人関係の難しさや感覚のアンバランス、変化への不安などが見られます。

「どうすればいいか」が分からず困ることも多く、理解の手助けや環境調整が必要です。

●LD(学習障害)

知的な遅れはなくとも、読む・書く・聞く・話すなど特定の学習分野に苦手さがあります。

「努力が足りない」と誤解されやすいため、早期に気づき、苦手を補う工夫が大切です。

(4)就学先を考えるときに大切なこと

宇都宮先生は、「学校を“比較”するのではなく、お子さんにどんなふうに育ってほしいかを軸に考えてほしい」とお話しされました。

★今のお子さんの姿(強みと課題)を客観的に把握する

★家庭だけでなく、園や事業所の意見も参考にする

★1年後・3年後の姿を思い描きながら環境を選ぶ

また、学校見学は早めに行い、気になることは学校に直接問い合わせてみることを勧められました。

(5)特別支援教育について ~それぞれの学びの場と支援の目的~

自閉症・情緒障害特別支援学級とは

集団生活や対人関係に難しさがあるお子さんに対し、特性や得意なことを理解しながら、「できた!」という自信を育てます。

自分の気持ちや行動を整える力、人との関わりを学び、一人ひとりのペースに合わせて丁寧に指導します。

通級指導教室とは

通常の学級に在籍しながら、言葉や情緒など特定の課題に応じて、別教室(別の学校)で個別の支援を受ける教育形態です。必要に応じて「自立活動」や学習の補充指導を行います。違う学校の通級指導教室に通う場合は、**保護者による送迎が必要です。**

知的障害特別支援学級とは

知的な発達に遅れがあり、言葉や理解の面で支援が必要なお子さんが対象です。生活科・国語・算数などを発達段階に応じて学び、生活に役立つ力や人との関わり方を身につけます。

特別支援学校とは

視覚・聴覚・知的・肢体不自由・病弱などの障害があるお子さんに合わせて教育を行い、「自分でできることを増やす」「自分らしく生活する」力を育てます。専門性の高い先生が一人ひとりに応じた支援を行います。

○まとめ

どの学びの場でも大切にしているのは、「**子どもが自分らしく成長できるように支えること**」です。お子さんの特性や得意なことを活かしながら、自信をもって生活できるように、学校とご家庭が協力して温かく支援していくことが何より大切です。先生からは、「特性を変えるのではなく、理解し、支援していくことが大切です。」というメッセージをいただきました。今回の講話は、就学先を選ぶ際の具体的な視点を持ち、わが子の“今”と“これから”を見つめ直す貴重な時間となりました。今後も、保護者さまが安心して就学を迎えるよう、情報提供の場を設けてまいります。

参加者の声(抜粋)

- ・年中の時期にこのような話を聞くことができ、とても参考になりました。
- ・上の子のときに戸惑った経験があったため、早めに知ることができてありがたかったです。
- ・支援学級や通級指導教室について理解が深まり、安心して準備ができそうです。
- ・就学に向けて何から始めたらよいか分からなかったので、疑問が解消されました。
- ・他の保護者と交流する機会があり、情報を共有できて良かったです。
- ・子どもの「困り感」に気づくことの大切さを実感しました。
- ・専門的な内容を分かりやすくお話しいただき、理解が深まりました。

各事業所より

第1事業所

①今月の行事

11月18日 避難訓練(水害)

②第1事業所では…

10月は、季節ならではの行事を楽しみながら、指先の細かな動きを育むことをねらいにハロウィン製作を行いました。

かわいいイクモやリースなど、子ども一人ひとりに合わせて難易度や道具を工夫し、保育士・児童指導員・専門士が意見を出し合いながら活動を計画しました。子どもたちが笑顔で楽しみながら取り組む姿が見られ、とても嬉しく思いました。

第3事業所

①今月の行事

11月25日 避難訓練(火災)

②第3事業所では…

季節を感じる取り組みとして、児童発達支援・放課後等デイサービスの両方でハロウィンに関する活動を多く取り入れました。さま



第2事業所

①今月の行事

11月11日 避難訓練(水害)

②第2事業所では…

11月に入り、朝晩の冷え込みに冬の足音を感じるようになりました。そんな中、季節の行事を楽しめるようにハロウィン製作に取り組んだり、公園遊びの機会を増やしたりして、屋外ならではの身体の動かし方を経験できる活動を行っています。



鹿児島の秋はあっという間に過ぎ、気づけば冬休みも目前です。寒さが増す時期ですので、子どもたちも職員も体調管理に気をつけながら、11月も元気いっぱいに活動を楽しみたいと思います。

↑ ざまな製作を楽しむ子どもたちのいきいきとした表情に、職員もたくさんの元気をもらいました。

11月は「みつのリファーム」での芋掘り体験など、自然にふれ合う活動を計画しています。これから寒さが厳しくなり、感染症の流行も心配な時期になりますが、体調管理に気をつけながら、クリスマスなど子どもたちが楽しみにしている行事を取り入れ、元気に冬を迎えるたいと思います。